

平成 29 年度

学校教育部の取り組み実績

<部の構成>

学務課、教職員課、児童生徒支援室、教育指導課、教育研修課

1. 重点施策・事業

(1) 学力の向上（小中一貫教育推進事業）

目標	子どもたちの確かな学力の向上に向けた取り組みを推進します。 学力状況を把握・分析し指導方法等を明確化し、公表します。 子どもたちの体力・運動能力の向上に向けた取り組みを推進します。
取り組み	<p>【学力の向上】 全中学校区に「小中一貫・学力向上推進コーディネーター」を核とした組織体制を確立し、「授業改善」及び「家庭学習の定着」に向けた取り組みの充実を図ります。 「Hirakata 授業スタンダード」に基づいた授業改善や教員の授業力向上に向けた研修の充実を図ります。 全国学力・学習状況調査結果を 1 つの指標として分析・活用した学力向上プランを作成し、児童・生徒の学力向上に取り組むとともに、全小中学校において学年会や教科会、学力向上委員会を定期的に開催することで授業研究や教材・教具等の充実を図り、教職員の指導力向上と授業改善に取り組みます。 家庭学習の定着に向けた取り組みとして、「自主学习ノートのすすめ」を作成し、モデル校において試行的に活用します。</p> <p>【学力状況を把握・分析し指導方法等を明確化・公表】 全国学力・学習状況調査の結果をもとに全国平均との比較・分析を行うなど、学力状況をよりわかりやすく公表するとともに、分析結果等をもとに、より効果的な施策につなげていきます。</p> <p>【体力の向上】 児童・生徒の体力・運動能力調査について、抽出対象校以外、また対象学年以外でも積極的に実施します。 夏休みの「開放プール」について、枚方市水泳進級表等を活用しながら、児童一人一人が目標を持って取り組める「水泳教室」として実施します。</p>
	平成 29 年度当初予算：81,668 千円

実績	<p>【学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小中一貫・学力向上推進担当者研修会」を実施し、新学習指導要領で求められている授業や「Hirakata 授業スタンダード」に基づいた授業改善及び家庭学習の定着に向けた取り組みの充実を図りました。 ・各小中学校において、学力向上プランを作成し、学力向上に向けた取り組みを計画的に推進するとともに、児童・生徒にアンケートを実施し、取り組みの進捗状況の把握を行っています。また、学力向上委員会を中心として、小学校における学年会、中学校における教科会を定期的に開催することで、組織的な取り組みを推進し、教職員の指導力向上と授業改善を図りました。 ・モデル校区において「自主学習ノートの手引き」を作成し、全保護者に配布するとともに、自主学習ノートの効果的な活用方法について実践研究を行いました。また、実践研究の成果を生かして、各小中学校において、自主学習ノートを効果的に活用し、家庭学習の定着を図りました。 <p>【学力状況を把握・分析し指導方法等を明確化・公表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の結果をもとに、本市の学力状況について、全国平均との比較・分析等を行い、成果と課題をより具体的に整理した分析結果及び改善方策の公表を行いました。また、平成 29 年度から、生活習慣や学習習慣に関する「児童・生徒質問紙調査」に加えて「学校質問紙調査」の公表を行っており、各学校の授業改善や家庭学習の充実を図りました。 <p>【体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上研究モデル校において、児童・生徒の体力・運動能力調査を対象学年以外に拡大して実施しました。 ・夏休み期間中に、枚方市水泳進級表等を活用した「水泳教室」を小学校 44 校（1 校は工事により実施不可）において実施しました。 <p>平成 29 年度決算：60,201 千円</p>	
	取り組みに対する達成状況	【 ○ 】

(2) 指導体制の充実（小中一貫教育推進事業）	
目標	義務教育 9 年間を見通して、児童・生徒の発達段階に応じた指導体制の充実を図ります。
取り組み	<p>小学 1 年生から 4 年生まで、支援学級児童数を含む 1 学級 35 人以下とする本市独自の少人数学級編制を実施します。</p> <p>小学 5・6 年生は、各中学校区の状況に応じて外国語活動や体育、理科を選択する一部教科担任制の実施や習熟度別指導、ティーム・ティーチング等の少人数指導を行うことにより、子どもの理解度に応じた学習指導を行います。</p> <p>中学校は、習熟度別指導、ティーム・ティーチング等の少人数指導を行うことにより、子どもの理解度に応じた学習指導を行います。</p> <p>平成 29 年度当初予算：263,861 千円</p>

実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学1年生から4年生まで、支援学級児童数を含む1学級35人以下とする本市独自の少人数学級編制を実施しました。 ・小学5・6年生は、外国語活動又は、体育、理科について一部教科担任制を実施しました。また、全小中学校において、子どもの理解度に応じた学習指導を行うため、習熟度別指導等の少人数指導を実施しました。
	平成29年度決算：281,168千円（※補正予算等の対応あり）
取り組みに対する達成状況	
【 ○ 】	

(3) 自学自習力の向上（放課後自習教室事業）	
目標	日々の学びの連続性の確立と家庭学習の充実に取り組みます。 より多くの児童・生徒の学習機会の充実を図ります。
取り組み	全小中学校に配備しているパソコンの自学自習力支援システムを、朝学習、授業、放課後学習、家庭学習において活用し、児童・生徒の自ら学ぼうとする力の育成と基礎・基本の定着に取り組みます。 各小中学校の放課後自習教室の開室日数を70日以上から80以上に拡充します。 平成29年度当初予算：59,144千円
実績	全小中学校において、朝学習、授業、放課後学習、家庭学習において自学自習力支援システムを活用し、児童・生徒の自ら学ぼうとする力の育成と基礎・基本の定着に取り組みました。放課後自習教室については、全小中学校で年間80日を目標に延べ5,699回（小学校3,816回、中学校1,883回）開室し、児童・生徒の自主的な学習機会の充実を図りました。また、放課後自習教室に、児童・生徒の学習の補助を行うやる気ングリダーを全小中学校に延べ214人配置しました。 平成29年度決算：50,007千円
取り組みに対する達成状況	
【 ◎ 】	

(4) 英語教育の推進	
目標	子どもたちの英語によるコミュニケーション能力の育成を図るため、小中学校間で連携しながら英語教育を推進します。
取り組み	全中学校に各校1名の外国人英語教育指導助手（NET）を、全小学校に英語が堪能な日本人英語教育指導助手（JTE）を配置し、学校の取り組みを支援します。 「読む」「書く」「聞く」「話す」力をバランスよく育む授業の実践と、児童・生徒の英語学習への意欲を高める取り組みを進めます。 平成29年度当初予算：132,235千円

実績	<p>・英語を使った体験的な学習を通して、英語によるコミュニケーション能力の育成を図るため、全中学校に各校1名の外国人英語教育指導助手（NET）を、全小学校に日本人英語教育指導助手（JTE）を配置し、「読む」「書く」「聞く」「話す」力をバランスよく育む授業を実施しました。また、外国人と身近に直接コミュニケーションを図る体験を通して、児童の外国語に対する意欲・関心・態度を高める取り組みを12小学校で実施しました。</p>
	<p>平成29年度決算：121,153千円</p>
<p>取り組みに対する達成状況 【 ◎ 】</p>	

(5) 生徒指導の充実	
目標	<p>学校・家庭・地域・関係機関が連携し、個に応じたきめ細かな指導の充実に努め、いじめ問題・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応を行います。</p>
取り組み	<p>社会福祉士等の専門的な知識・技術を有するスクールソーシャルワーカーを配置し、状況に応じて、関係機関との連携を図りながら、子どもの学校生活の充実や家庭の教育力向上を支援します。</p> <p>総合電話窓口「子どもの笑顔を守るコール」を設置し、児童・生徒・保護者等からの電話相談に対応するとともに、必要に応じて教育相談員が継続的な電話または面談による教育相談を実施します。</p> <p>複数の中学校に市独自で教員等を配置し、生徒指導体制の強化を図り、いじめ等の未然防止・早期発見に繋げていきます。</p> <p>「枚方市いじめ問題対策連絡協議会」等において、いじめ防止等に関する関係機関との連携の強化を図り、いじめ問題への対策に向けた協議を行います。</p> <p>人権課題に関する正しい知識の習得及び課題解決に取り組むとともに、いじめ等による人権侵害事象の未然防止のため、高い人権意識と自他を尊重し、認め合う実践力を持った主体性のある人間の育成をめざした人権教育の推進に努めます。</p> <p>平成29年度当初予算：118,041千円</p>
実績	<p>スクールソーシャルワーカー等の活用により課題のある児童・生徒及び保護者の支援に取り組みました。</p> <p>また、いじめ問題については、「枚方市いじめ問題対策連絡協議会」を年3回開催し、連携・強化を図りました。一方、生起したいじめの重大事態に、教育委員会及び学校は、「枚方市学校いじめ対策審議会」の助言等を受けながら解消に向けた取り組みを重ねました。本審議会からの提言を踏まえ、枚方市いじめ防止基本方針の改定、SOSのキャッチの仕方や対応方法等を記載した簡易マニュアルの作成を行い、組織的かつ適切な対応に努めるとともに、引き続きいじめの未然防止に取り組めます。さらに、スクールカウンセラー等を積極的に活用し、いじめを受けた児童・生徒及びその保護者の気持ちに寄り添い、いじめの早期解消に努めていきます。</p>

各学校における人権教育の取り組みを把握し、人権侵害事象の未然防止に努めました。
平成 29 年度決算：105,498 千円
取り組みに対する達成状況 【 ○ 】

(6) 支援教育の充実

目標	<p>インクルーシブ教育システム（※）の理念を踏まえ、すべての子どもが「ともに学び、ともに育つ」という観点からの学校づくり・集団づくりの充実を図り、障害のある子ども一人ひとりのニーズに応じた支援を行います。</p> <p>※インクルーシブ教育システム…障害のある者と障害のない者が、同じ場で、可能な限りともに学ぶ仕組みのこと。</p>
取り組み	<p>支援教育に関する専門家等を学校園へ派遣し、教職員への指導・助言等を行います。学校看護師・介助員の配置や支援教育に係る環境の整備等を行います。</p> <p>非常勤講師を配置し、支援教育推進の中心となる支援教育コーディネーターの活動を支援します。</p> <p>情操教育の観点から馬とふれあい、豊かな心の育成をめざし、子どもの自立のための支援を行います。</p> <p>小学校 2 校の支援学級にタブレット端末を導入し、ICT の効果的な活用について研究します。</p> <p>支援学級を新設する際に、設備整備のため備品等を購入し、また、障害の状況に応じてレバーで操作できるリコーダー、拡大教科書及び階段昇降車等を貸与する等、教育環境整備を行います。</p> <p>平成 29 年度当初予算：184,531 千円</p>

実績	<p>すべての子どもが「ともに学び、ともに育つ」という観点から、支援教育に関する専門家の派遣、学校看護師・介助員の配置、支援教育コーディネーターを支援するための非常勤講師の配置、小学校 2 校に導入したタブレット端末の効果検証、備品の購入や貸与を行い、支援教育に係る環境整備を進めました。</p> <p>平成 29 年度決算：189,644 千円（※補正予算等の対応あり）</p>
取り組みに対する達成状況 【 ○ 】	

(7) 教職員研修の充実	
目標	「経験の浅い教職員及びミドルリーダーの育成」「学力向上に向けた授業づくり・授業改善の推進」「授業研究・研修への支援の充実」を図ります。
取り組み	<p>授業研究・研修への支援を充実し、教員の授業力向上と児童・生徒の学力向上を図ります。</p> <p>学習指導要領改訂を見据え、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「Hirakata 授業スタンダード」に基づいた授業改善や教員の授業力向上に向けた研修の充実を図ります。具体的には、本市独自の教職員研修計画に基づき、教職員の経験年数や職務に応じて行う「基本研修」及び教育課題や教科等の専門性を高める「専門研修」を実施します。</p> <p>高い意欲と優れた指導力を有する教職員を育成する「授業の達人養成講座」をさらに充実させ、教職員の授業力、指導力の向上を図ります。</p> <p>指導主事、教育推進プランナーが学校園を訪問し、経験の浅い教職員への指導助言や授業研究・研修への継続的な指導・支援を行います。</p> <p>平成 29 年度当初予算：8,702 千円</p>
実績	<p>教職員の経験・職務に応じた「基本研修」を 170 回、教育課題や教科等の専門性を高める「専門研修」を 106 回、合計 276 回の教職員研修を実施しました。専門研修のうち「授業の達人養成講座」については、12 回実施しました。延べ 11,593 人が受講しました。指導主事及び教育推進プランナーによる学校園訪問を 1,715 回実施しました。（経験の浅い教職員への指導助言、授業改善、授業研究等への指導・支援等）</p> <p>平成 29 年度決算：6,783 千円</p>
取り組みに対する達成状況	
【 ◎ 】	

2. 行政改革・業務改善

◆新行政改革実施プランの改革課題

改革課題	取り組み内容・目標
35. 市立幼稚園の効率的・効果的な配置	市立幼稚園に関する配置基準を見直し、効率的・効果的な配置についての検討を行います。
実績	市立幼稚園の効率的・効果的な配置を含めた今後の市立幼稚園のあり方について方向性や考え方をまとめるため、幼児教育検討委員会等で枚方市幼児教育ビジョンの改訂について検討を行いました。市全体として就学前の教育と保育のあり方に係る一体的・総合的なプランを検討することとなり、その中で市立幼稚園のあり方を示すこととしました。
取り組みに対する達成状況	
【 △ 】	

改革課題	取り組み内容・目標
36. 交通専従員配置事業の見直し	通学児童の安全確保を第一に考え、関係機関と連携し、業務委託の拡大又は毎年実施する現地調査をもとに交通量が減少した箇所など、事業目的の原因が解消された箇所から順次廃止も含めた見直しを進め、平成 31 年度までに、交通専従員の 1 割を減少させます。
実績	配置箇所全 28 箇所の交通状況調査を実施し、実態把握を行いました。通学路の安全確保を第一に考え、関係機関と連携し、業務委託への切り替えを行うとともに、交通量が減少したなど、事業目的の原因が解消された箇所については見直しを進め、交通専従員 1 名を削減しました。また、通学中の事故を受け通学路の変更を行い、児童の安全確保のため、新たに交通指導員 2 箇所 4 名を配置しました。
取り組みに対する達成状況 【 ◎ 】	

改革課題	取り組み内容・目標
53. 教職員の資質・指導力の向上	経験の浅い教職員の育成、リーダー及び管理職の養成や児童・生徒の学力向上に向けた授業づくり・授業改善、小中一貫教育推進のための学校支援など、本市独自の研修カリキュラムのもとで教職員の資質・指導力、授業力の一層の向上を図るため、研修を実施します。
実績	平成 29 年度は、平成 28 年度に引き続き、本市の教育課題に応じた独自のカリキュラムのもと、初任者研修や 10 年経験者研修をはじめ、教職員の経験・職務に応じた基本研修及び教育課題や教科等の専門性を高める専門研修を実施し、教職員の資質・指導力の向上を図りました。平成 30 年 3 月末時点で基本研修を 170 回、専門研修を 106 回実施しました。 また、指導主事、教育推進プランナーによる経験の浅い教員の研究授業への指導助言及び学校運営等への支援を 1,715 回行いました。加えて、校内の研究体制づくりや教員の授業改善、子どもたちの学力向上に向け、指導主事、教育推進プランナー等が学校を訪問する「校内研究支援」（授業研究・授業改善 学校支援）を 203 回実施し、授業改善・学力向上の取り組みの推進を図りました。
取り組みに対する達成状況 【 ◎ 】	

◆業務改善のテーマ・目標

テーマ	取り組み内容・目標
部内組織の強化	組織的な若手職員の育成とともに事務の効率化を図り、ノー残業デーをより一層推進します。
実績	指導主事研修会を年 9 回実施し、経験の浅い指導主事の育成を図りました。また事務の効率化については、各種調査の精選等により、引き続き取り組んでいきます。
取り組みに対する達成状況 【 ○ 】	

3. 予算編成・執行

- ◆部の施策・事業の計画に当たっては、国庫補助金、大阪府補助金・委託金を最大限に活用するなど、効率的な予算編成に努めます。

実績	<p>課題を抱えた子どもを支援するため、スクールソーシャルワーカー活用事業及び枚方市学校いじめ対策審議会委員等外部専門家に係る経費に、国の教育支援体制整備事業費補助金（いじめ対策・不登校支援等総合推進事業 418万2,000円）を活用したほか、学校園で医療的ケアを行う学校看護師配置に係る経費等に、国の教育支援体制整備事業費補助金（インクルーシブ教育システム推進事業 668万円）及び府の市町村医療的ケア体制整備推進事業補助金（494万504円）を活用し、支援教育の充実を図りました。</p> <p>また、文部科学省委託事業「学校現場における業務改善加速事業」を受託し、楠葉中学校区3校において、業務アシスタントの導入、先進地域の視察、業務改善アドバイザーを招聘して業務改善研修を実施するなど、委託金（105万518円）を有効活用した実践研究を進め、その他、子ども・子育て支援交付金（預かり保育事業 522万6,000円）、学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金（放課後自習教室事業 639万5,000円）、道徳教育推進事業委託（道徳教育推進事業 30万円）など、可能な限り国庫補助金、大阪府補助金・委託金を有効活用し、効率的な予算執行に努めました。</p>
取り組みに対する達成状況	
【 ◎ 】	

- ◆義務教育9カ年を見通して、全中学校区に学力向上に特化した小中一貫・学力向上推進コーディネーターを配置し確かな学力の向上に向けた取り組みを推進します。（8,166万8,000円）

実績	<p>小中一貫・学力向上推進コーディネーターが学力向上の取り組みに専念できるよう、中学校5校に任期付講師を、14校に非常勤講師を配置しました。コーディネーターを核とした組織体制を確立し、「Hirakata 授業スタンダード」に基づいた授業改善や家庭学習の定着に向けた取り組みを進めました。</p>
取り組みに対する達成状況	
【 ◎ 】	

- ◆中学校教諭による小学6年生を対象とした教科担任制の導入教科について、これまでの外国語活動に理科・体育を追加し、各中学校区の状況に応じて選択できるよう拡充するなど小中一貫教育を進めます。また、小中学校において発達段階に応じた習熟度別指導等、少人数指導をさらに充実していきます。（2億6,386万1,000円）。

実績	<p>小学6年生を対象とした教科担任制を推進するため、中学校に非常勤講師を16名配置し、小中学校間の円滑な接続と、小学校と中学校の教職員が相互に連携し、それぞれの専門性を生かして、指導力の向上を図りました。また、小学校において、市独自の少人数学級編制を充実させるため、任期付講師を47名配置し、児童・生徒の発達段階に応じた指導体制の充実を図りました。</p>
取り組みに対する達成状況	
【 ◎ 】	

4. 組織運営・人材育成

- ◆学校教育部内の緊密な連携による効果的な組織運営に努めます。

実績	部内課長以上が出席する定例の部内会議や各担当のミーティング等により、各課が情報共有を進め、効率的・効果的な組織運営に努めました。
取り組みに対する達成状況	【 ◎ 】

- ◆専門的な知識や技術を習得するための研修等を実施し、職員力の向上に努めます。

実績	所管する教育機関に勤務する職員も含め、部内全職員を対象に人権研修を実施し、職員の人権意識の向上を図りました。また、指導主事研修会を年9回実施し、経験の浅い指導主事の育成を図りました。
取り組みに対する達成状況	【 ◎ 】

- ◆部内職員の健康管理とメンタルケアに努めるとともに、時間外勤務の縮減に努めます。

実績	健康診断の受診、ストレスチェックの受検を促し、職員の健康管理に努めました。また時間外勤務の縮減については、事務の効率化等に努め、引き続き取り組んでいきます。
取り組みに対する達成状況	【 ○ 】

5. 広報・情報発信

- ◆ホームページ・広報ひらかた・学校だより・リーフレットなどを活用し、学校園や学校教育部の取り組みや教育活動を発信するとともに、「枚方市教育フォーラム」をはじめとした市制施行70周年記念事業を活用し、より多くの市民に情報を発信します。

実績	学力向上に向けた取り組みや小中一貫教育など枚方の学校教育の取り組みや、各学校園の特色ある取り組みについてホームページ、広報ひらかた、学校だよりを通じて広く情報発信をしました。また、市制施行70周年記念事業及び枚方市こども夢基金活用事業として、7月21日に枚方市市民会館大ホールで「枚方市教育フォーラム」を開催し、「枚方における子ども達の『確かな学び』の育成に向けて」をテーマに掲げ、本市教育の主な取り組みを保護者・市民に広く発信しました。
取り組みに対する達成状況	【 ◎ 】